



令和3年度学校だより

甲府市立南西中学校

## 銀杏 (いちょう)

第13号

学校教育目標「たくましい心と体をもち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬



朝夕は大分しのぎやすくなり、夜になると虫の音も聞かれるなど、少しずつではありますが秋の気配が感じられるようになってきました。

分散登校というイレギュラーな形でスタートした二学期も今週からは2週目となりました。全員が登校している時のような活気はさすがに影を潜めています。一方、授業ではいつも以上に行き届いた丁寧な指導が可能となり、私たちが分散登校のメリットとデメリットを日々感じながら子どもたちと向き合っています。12日までの、みんなでの我慢・辛抱が、まずは現在の状況（分散登校と諸活動の中止）の解消に、そして一学期同様の生活を取り戻すことにつながることを信じてとともに、願わずにはられません。

さて、9月と言えば、いちょう祭の取り組みに熱く燃えるのが例年ですが、この状況下では準備や練習はほとんどできず、いちょう祭を通して目指すところの「組織活動の活性化」や「成就感・達成感の分かち合い」、「互いの良さの再発見」、さらには「リーダーの育成」といった本来の目的・ねらいに迫ることは難しいと判断し延期を決めました。しかし、それは決して“諦めた”のではなく、何ができるのか、どうやったらできるのかと、“できること”に改めて目を向け、みんなで頑張る方向性を明らかにして仕切り直すことだと思っています。

実際のところ、全校制作の部門では、全員が揃わなくても“できること”がこれまでの段階ですすでに準備されていたので、子どもたちは学活等を使って各自ができる作業を進めています。また、9月29日（火）の5校時には第1回目のブロック集会在が計画されています。内容の変更点や取り組み計画を確認しながら、延期によって少しトーンダウンした気持ちをもう一度奮い立たせ、いちょう祭に向かってみんなで士気を高めることになるのではないかと期待しているところです。

生徒会を中心とした3年生が、今年度のいちょう祭に強い思いを持っていることは、いちょう祭テーマの『繫承（けいしょう）』からも容易に想像することができます。その思いとは、南西中の最高学年となった今年、これまでの2年間で先輩から直接教えてもらったり、見たり聞いたりして得たもの、感じたものを、今度は自分たちの姿を通して1・2年生にしっかりと伝えていきたい、つないでいきたいというものです。さらには、それができるのは「南西中三大文化を継承したいちょう祭」を経験したことのある自分たちしかいないという、もう一つの強い思いにもつながっています。その責任感にも似た強い気持ちを大切にしつつ、一方で、昨年経験した「コロナ禍における新しいスタイルのいちょう祭」も生かし、“できること”に目を向けて生み出した新たなものを南西中の新たな伝統や文化として継承していくことも、テーマ『繫承』の立派な具現であることを、3年生をはじめ子どもたちには心に留めておいてほしいと思っています。

来るべき時に備えて密かに心を燃やす、そんな9月にしていきたいです。



# 分散登校中の学校では。



【1年美術：教科書を立てて作品を鑑賞】



【2年技術：1テーブルに座るのは二人まで。距離を保ってハンダ付けに挑戦中。】



【Chromebookを使った授業も各教科で少しずつ導入されています。1年英語ではジェレミー先生に夏休みの様子を尋ねることに挑戦。そのやりとりを録画し、自身の振り返りに生かします。3年音楽では、作曲家ヴェルディについてのレポート作りにChromebookを活用しています。】



【3年数学TT：2人の先生が机間巡視しながら子どもたちの指導・支援に当たっています。】



【給食は全員が前を向いて「黙食」。教室内に響くのは食器と箸の音だけ…。ちょっと寂しいです。】